

# 子どもたちのためにできることを ～子ども・学校に寄り添うPTAをめざして～

愛知県豊橋市立高豊中学校PTA

会長 吉本 昇

## 1 はじめに

高豊中学校は、豊橋市の南に位置し、校舎からは太平洋を眺めることができ、冬場には富士山を遠くに眺めることができる。また学校の周辺には田畑が広がり、ササユリが咲く「ささゆりの里」やアカウミガメの産卵場所である有名な「表浜海岸」もある。



美しい自然に恵まれた素晴らしい環境にある。

中学校区は3つの小学校区にわかれ、豊かな自然に恵まれ、農業が盛んな高根小校区・豊南小校区と新興住宅地で会社勤めの世帯の多い富士見小校区という特色の異なる2つの地域を有している。

平成27年度からは、校区3小学校と施設分離型小中一貫教育を行っており、「ふるさと高豊

の地で、仲間や、家庭・地域、自然とともに育った子ども



が、自分の力で未来を切り開いてほしい」という願いをもち、義務教育9年間を見通した教育活動に取り組んでいる。

生徒数は404人、学級数は15学級で、高豊中生徒の指針である「くろしお魂（くじけない心 労を惜しまぬ体 信頼する仲間 大きな夢）」のもと、学習、行事、部活動

などに積極的に取り組んでいる。

## 2 PTA組織について

PTA委員会の組織としては、各地区から3名ずつ選出された地区委員48名が、広報・文化・生活指導・健康保健の4つの専門部にわかれ、活動をしている。

生徒数の減少や、活動の見直しの中で、将来に渡って持続可能なものとするため、令和5年度から委員数や専門部の在り方の見直しを行った。

【～令和4年度】

～6専門部会～ <64名>

広報部 文化部 生活指導部 整美部  
福祉厚生部 体育部



【令和5年度～】

～4専門部会～ <48名>

広報部 文化部 生活指導部 健康保健部

また、活動の継続性を考え、委員の3分の1については、任期を2年間としている。そして、2年目の委員が、それぞれの専門部の部長になることで、活動の引継ぎがスムーズに行われている。

このことが、学校支援を継続的に実施できることにつながっている。

## 3 PTA活動における学校支援

「子どもたちのためにできることを」という思いのもと、子ども・学校に寄り添いながら学校支援を行っている。

## (1) 地域で寄り添う

### ア 資源回収

地域に貢献する活動として5月、7月、12月の年3回、資源回収を実施している。3回のうち7月と12月は保護者会の



日程に合わせて持ち寄り資源回収を行っている。

5月は生徒が自分の地域の世帯をまわり、資源を回収に行く方法で実施している。

この活動は、生徒たちが地域に出かけ、大人と一緒に活動をする貴重な機会になっている。地域についてよく知っている地区委員が、回収の仕方について、

先生や生徒にアドバイスをしたり、生徒だけ



では回収できないところを、車で回収をしたりして、学校・生徒と協力して回収にあたっている。また、委員だけでなく、回収を手伝ってくれる保護者も多く、子どもに寄り添った活動の中で、親子のふれあい場となったり、よい勤労観の育成につながったりしている。

### イ 海岸クリーン活動

本校の伝統行事である海岸クリーン



活動は令和6年度で38回目を迎える。「ささゆりが

咲き、アカウミガメが産卵する、この地域を私たちが守り続けていく」という生徒たちの思いでこの活動を続けており、この思いに応えPTAも協力している。当日は生徒といっしょにゴミを拾ったり、生徒だけでは運べない量のゴミがでるので、これらを運搬するための車両を提供したりしている。自分たちの住む地域を生徒たちとともに清掃する活動は、「地域を大切にする」「地域とともに生きる」心を育むとても有意義な活動である。



また、会員自身が、地域のことを知る機会になったり、自分の子どもだけでなく、多くの生徒とふれあうことができたりする貴重な機会にもなっている。

### ウ 登校指導

本校は校区が広いので、自転車通学者が多く、通学路である国道42号は自動車の交通量も多い。そこで5月と9月の年2回（月曜日～金曜日の5日間ずつ）登校指導を行っている。校区



内の2か所の交差点に2名ずつのPTA委員が立ち、

生徒の登校を見守っている。この登校指導では安全指導をしながら、生徒と朝の挨拶を交わしており、さまざまな生徒と関わる機会となっている。

### エ 地域を学ぶ教養講座

会員が、地域のことを学ぶ機会とし

て、講師を招いて、毎年10月に教養講座を開催している。

P T A文化部が中心となり、学校と相談し講師の選定を行っている。令和



5年度は、本校の元職員の理科教員を招き、校区の自然

についての講演をしていただいた。私たちの住む渥美半島は、日本の中では珍しい西向きに突き出した半島で貴重な植物が多くあること、しかし、温暖化で海面が上昇し砂浜が減っていること。在来種が減っているのは、意外にも人間が勝手に捨てたり植えたりした

外来種が原因であることなどを知り、自然保護を意識するきっかけとなった。



また、講座の内容について、家庭で子どもたちと話し合う話題にすることで、校区のことに興味をもったり、地域のことを誇りに思ったりすることにつながる。この教養講座では、地域に住んでいながら、初めて知ることもあり、とても有意義な会となっている。

## (2) 学校で寄り添う

### ア 黒潮体育祭



5月に高豊中学校では体育祭（黒潮体育祭）を開催している。前述したように校区が大変

広いため、自動車で来校する保護者も大勢いる。円滑な体育祭運営のために、P T A委員が駐車場係として学校に協力している。駐車スペースに限りがあるため、事前に乗り合わせ等の依頼を学校より全世帯の保護者にメールでお知らせし、全保護者にご協力いただいている。また、写真撮影、来賓受付などもP T A委員が請け負っている。

委員の3分の1は、昨年度も経験している活動のため、



経験者を中心に運営がされ、それぞれの係の仕事が、とてもスムーズに実施できている。

当日は先生たちには体育祭運営に集中してもらうことができ、P T Aとして陰ながら学校行事に関わることができている。

### イ 学校保健委員会

学校保健委員会は、第1回「がん教育」（3年生徒参加）、第2回「救命救急」（2年生徒参加）、第3回「体の変化と心の



変化」（1年生徒参加）、第4回「より健康な学校生活を送るために」（保健委員参加）というテーマで年4回開催し、P T A会員に呼びかけ、希望者が参加している。第1回から第3回は外部より講師を招いて講演を聴く形式で、会員は生徒と同じ目線になってそのテーマについて考えている。

また、第4回は、保健委員が1年間

の活動や自分たちの生活について振り返る活動で、こ



の会にはPTA役員が参加している。保護者の立場から子どもの生活について意見や保健委員の活動についての感想を述べ、生徒のがんばりを認める場となっている。

#### ウ 給食懇談会

年1回、給食懇談会を開催している。内容は「試食⇒生徒の給食の様子



の参観⇒懇談」である。久しぶりに給食を食べたり、

校長先生や教頭先生といっしょに会食をしたりして、とても明るく和やかな雰囲気であった。また生徒の給食の配膳や会食の様子を参観し、ふだん見ることができない、授業参観のときとは違った生徒の表情を見ることができる。最後に調理場長や栄養教諭を迎え、食に関する話題を中心に懇談をしている。調理場側からは栄養面を考

ながら献立を考えていることや衛生面に気をつけて調理していることを、PTA側からは生



徒たちのことを考えて給食をつくってくれていることへの感謝の気持ちを伝えている。調理場と保護者が直接話をする貴重な機会となっている。

#### 4 おわりに

以上のようなさまざまな学校支援を実施している中で、次のような成果を実感している。



- ・組織の見直しを進めたこと、また、任期を工夫したことで、持続可能な形で、学校支援を継続することができている。
- ・特に地域での活動への支援では、地域をよく知る委員の存在が、子どもや学校の助けになっており、スムーズな運営につながっている。
- ・地域や学校で、子どもに寄り添い活動することで、ふれあいの機会が増え、子ども理解につながっている。

子どもを取り巻く環境は少しずつ変化をしており、私たちPTAも止まることなく変化していくことが必要である。一方「子どもたちのためにできることを」という思いはいつまでも変わらず大切にし、子ども・学校に寄り添いながら、今後も活動を続けていきたい。

